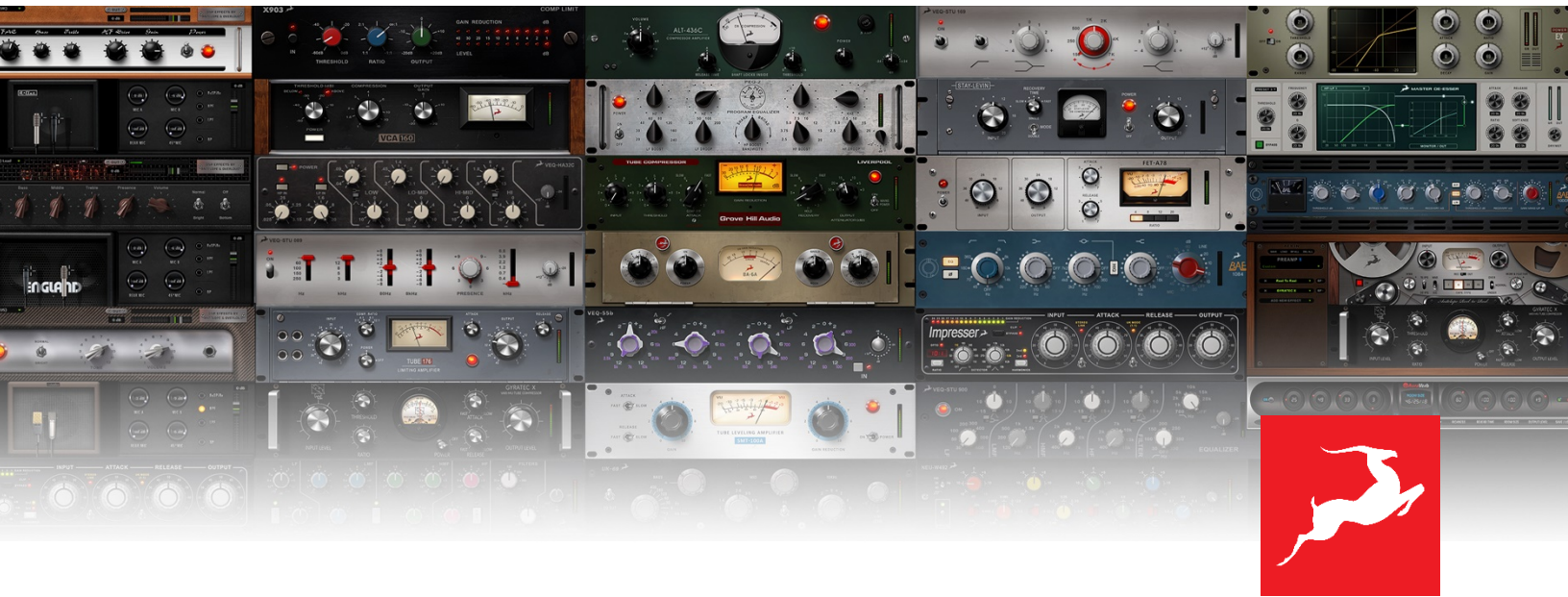




User Manual

Discrete 8

Synergy Core

THUNDERBOLT™ 2 & USB 2.0 AUDIO INTERFACE
with 8 discrete preamps and Synergy Core FX



CONTENTS

1. BEFORE YOU BEGIN	4
2. SETTING UP	6
2.1. Configuring for Windows 10	Error! Bookmark not defined.
2.2. Configuring for macOS (10.14 or later)	Error! Bookmark not defined.
3. FRONT PANEL EXPLAINED	6
3.1 System Menu.....	14
3.2 Control Menu	16
4. REAR PANEL EXPLAINED	19
5. SOFTWARE CONTROL PANEL	23
5.1. Quick Start	24
5.2. Mouse & Keyboard Shortcuts.....	Error! Bookmark not defined.
5.3. Main View	28
5.3.1. Function Strip 1	28
5.3.2. Function Strip 2.....	Error! Bookmark not defined.
5.3.2.1. Settings Button.....	Error! Bookmark not defined.
5.3.3. PREAMPS Strip	32
5.3.4. Input Selectors	33
5.3.5. AFX Strip	34
5.3.6. Output Tabs.....	35
5.3.6.1 AuraVerb	Error! Bookmark not defined.
6. Guitar Amps & Cabs	Error! Bookmark not defined.
6.1. Software Re-amping.....	Error! Bookmark not defined.
7. Edge & Verge mic emulations.....	Error! Bookmark not defined.



7.1 Getting Started	Error! Bookmark not defined.
7.2. Gain Calibration.....	Error! Bookmark not defined.
7.3. Edge Solo.....	Error! Bookmark not defined.
7.4. Edge Duo	Error! Bookmark not defined.
7.5. Edge Quadro.....	Error! Bookmark not defined.
7.6. Verge.....	Error! Bookmark not defined.
8. AFX2DAW	Error! Bookmark not defined.
9. ADVANCED USER TIPS.....	36
10. CUSTOMER SUPPORT INFORMATION.....	61
11. MY ANTELOPE AUDIO PRODUCT ISN'T WORKING	62
12. LIMITED WARRANTY POLICY.....	64
13. SAFETY NOTES	72
14. TECHNICAL SPECIFICATIONS.....	73



1. BEFORE YOU BEGIN



Congratulations on your purchase! We'd like to turn your attention to the following:

As with all Antelope Audio interfaces, the software Control Panel is the “mediator” between the Discrete 8 Synergy Core and your preferred DAW. To take complete advantage of the unit's capabilities, you are meant to handle tasks like gain adjustments, signal routing, effects processing, 'rough' mixing and metering from the Control Panel. The resulting audio is routed into your DAW for recording in formats of your choice, such as multi-track, stem, and two-channel stereo.

Depending on your experience, you might find this approach different from what you are used to. Perhaps the most familiar workflow for the modern recordist involves treating the audio interface like a box which brings audio in and out of your computer, with the rest of the session taking place in your DAW. To an extent, it is possible to use the Discrete 8 Synergy Core in this manner by relying on the front panel display and controls for monitoring, gain control and setup. The DAW is used for recording, mixing and mastering.

However, the only way to use Synergy Core effects as inserts (plug-ins) in your DAW is by purchasing the Antelope Audio AFX2DAW plug-in. Think of it as a hardware-to-software “bridge” that turns our hardware-processed, low-latency effects into typical software plug-ins applied to your audio tracks. At the time of writing, AFX2DAW is only



available for Mac users over Thunderbolt™. AFX2DAW for Windows is currently in development. [Click here to learn more.](#)

After the initial setup, it is also possible to use Discrete 8 Synergy Core without a computer connection. In this case, the unit functions as a digital mixer operated from the front panel controls. The last known signal routing configuration from the software Control Panel is applied.

Regardless of your preference, we encourage you to familiarize yourself with the Control Panel application. This way, you can overcome potential stumbling blocks for users new to Antelope Audio products. For example, almost any issue concerning recording and playing back audio (on the interface's side) can be resolved with the correct signal routing.

Should you ever find yourself struggling, do not hesitate to contact our [Customer Support](#) team over phone, live chat and our ticket system. You can also visit [Antelope Audio on YouTube](#) and explore our video tutorials or join the [Antelope Audio Users](#) Facebook group and ask for advice. The [Knowledge Base](#) is also a good source of information.

Best wishes,

Team Antelope



2. SETTING UP

デバイスに AC 電源に接続し、コンピューターの電源を入れます。

1. USB 2.0 Type-B（付属）または Thunderbolt™ ケーブルを Discrete 8 Synergy Core およびコンピューターに対応するポートに接続します。

メモ:

- ユニットは、最初の起動時に接続タイプを自動的に検出しますが、その後の起動では検出しません。Thunderbolt™ 接続と USB 接続を切り替えるたびに、システムメニューの [Change Interface] から接続タイプを手動で設定します。
- 初期設定後、Thunderbolt™ と USB の両方をコンピューターに接続し、システムメニューの [Change Interface] から切り替えることができます。

2. www.antelopeaudio.com にアクセスしてアカウントにログインするか、新たにアカウントを作成します。
(アカウントがない場合)

3. Discrete 8 Synergy Core Web サイトの「[ダウンロード](#)」セクションから、オペレーティングシステム (Windows 10 / macOS 10.11 以降) 用の最新の Antelope Launcher とドライバーをダウンロードしてインストールします。

注意: Windows での Thunderbolt™ 接続の場合、最新のものをダウンロードしてインストールします。 [Antelope Audio Windows Thunderbolt™ driver](#).

4. Antelope Launcher を起動し、Discrete 8 Synergy Core が最新のファームウェアとコントロールパネルバージョンを実行していることを確認します。セットアップの詳しい解説は [こちら](#)

メモ: デバイスが Antelope Launcher またはオペレーティングシステムに認識されない場合は [こちら](#)



5. Antelope Launcher から Discrete 8 Synergy Core Control Panel を起動し、デバイスのアクティベーションを行います。

注意: オペレーティングシステムからセキュリティプロンプトをバイパスします。Windows Defender ファイアウォールおよび macOS アラート。

6. お好みのアナログおよびデジタル機器を Discrete 8 Synergy Core に接続します。

7. お好みの DAW を起動:

- Discrete 8 Synergy Core を DAW の入出力デバイスとして選択します。
- DAW およびオペレーティングシステムのサンプルレートがデバイスのサンプルレートと一致していることを確認します。

ヘルプが必要な場合

[Antelope Audio Customer Support](#) サポートが必要な場合はこちらにアクセスしてください。

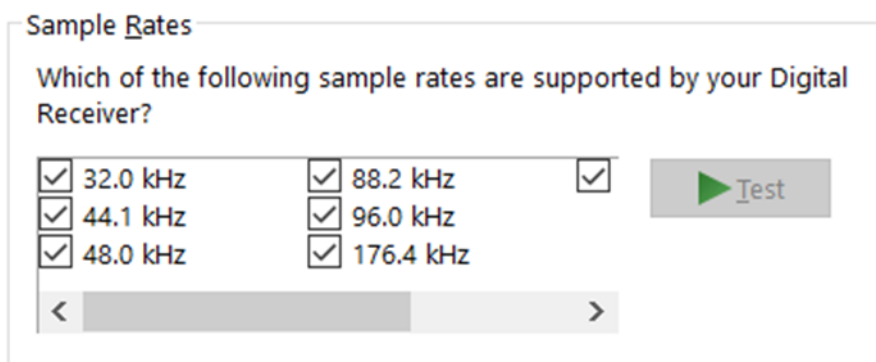
日本語でのサポートを希望する場合は日本語サポートへアクセスしてください。



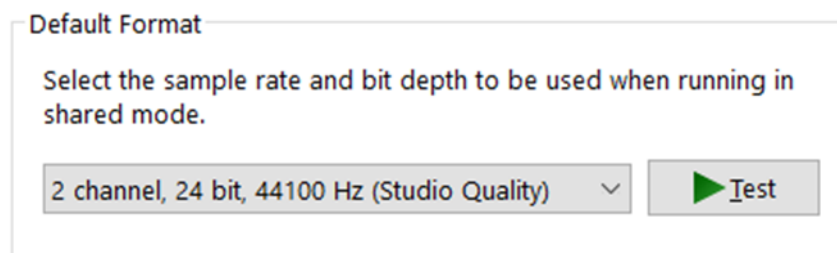
2.1. Windows 10 の設定

Windows 10 では、すべてを稼働させるためにいくつかの調整が必要です。

1. コントロールパネルから [サウンド] オプションウィンドウに入るか、システムトレイのスピーカーアイコンを右クリックして [サウンド] を選択します。
2. [再生] タブに入り、デバイスがデフォルトの再生デバイスとして設定されていることを確認します。デバイスを選択し、[プロパティ] をクリックします。
3. [サポートされている形式] タブに入り、使用可能なすべてのサンプルレートの横にチェックマークを付けます。



4. [拡張機能] タブに入り、すべての拡張機能が 無効 になっていることを確認します。
5. [詳細設定] タブを開き、利用可能な [2チャンネル、24ビット] モードのいずれかを選択 し、[OK]をクリックしてウィンドウを閉じます。





[録音] タブに入り、デバイスがデフォルトの録音デバイスとして設定されていることを確認し、[OK] をクリックしてウィンドウを閉じます。

Tips

- 使用中に中断または障害が発生し、同時に OS からオーディオを再生しようとする場合は、デバイスのサンプルレートが DAW セッションと一致することを確認してください。
- デバイスを無効にし、[再生] タブから再度有効にして、ドライバーを更新できます。これは、デバイスの切断と再接続に似ており、Windows が使用中のアプリケーションの再生設定をリセットします。
- 場合によっては、[再生] プロパティの [詳細] タブで [排他モード] 機能を無効にすることで、複数の再生アプリケーションを同時に実行するのに役立つ場合があります。
- 32kHz のサンプルレートを無効にすることは必須ではありませんが、一般に役立つ場合があります。

以下を軽くお読みください。

Antelope Audio Knowledge Base - [Windows 10 Optimization](#)

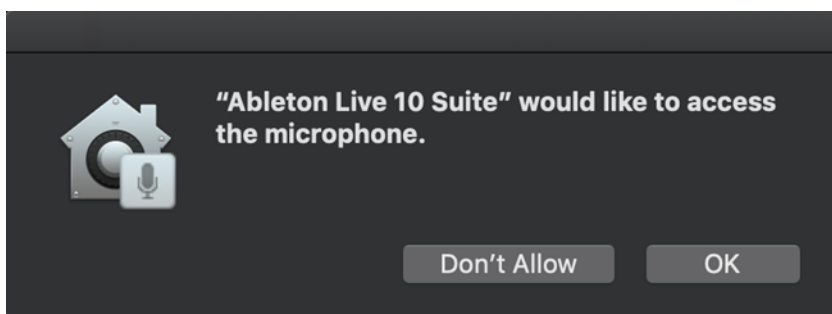


2.2. macOS の設定 (10.14 or later)

macOS Mojave 10.14 で導入された新しいセキュリティ設定により、すべてが正しくセットアップされているにもかかわらず、DAW に入力信号が届かない場合があります。

これらの手順は、DAW で Discrete 8 Synergy Core を初めて使用する場合に適用されます。

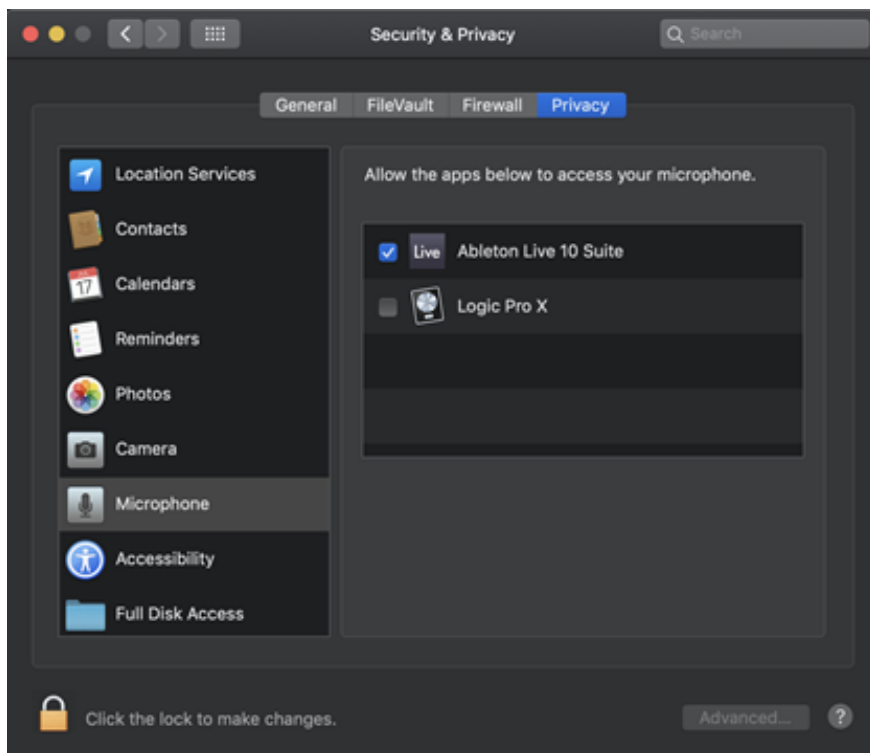
1. DAW を起動し、入力デバイスとして Antelope 製品を選択します。次のダイアログボックスが表示されます。（例えば、Ableton Live 10 Suite を使用している場合）



2. [OK] をクリックすると、DAW が正常に機能します。

ただし、何らかの理由で上記のイベントが発生しなかった場合、または複数の DAW を使用している場合は、[セキュリティとプライバシー] 設定でそれぞれを手動で調整する必要があります。

1. メニューバー 左上 [Apple] 記号をクリックして、[システム環境設定] を選択します。[セキュリティとプライバシー] 設定メニューに移動します。
2. [プライバシー] タブをクリックします。左側の列で、[マイク] を選択します。使用する DAW の横にチェックマークがあることを確認してください。



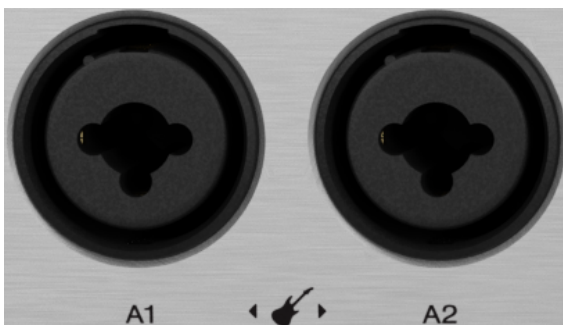
注意: 設定を変更するには、左下隅にある南京錠のシンボルをクリックしてパスワードを入力する必要があります。



3. FRONT PANEL EXPLAINED



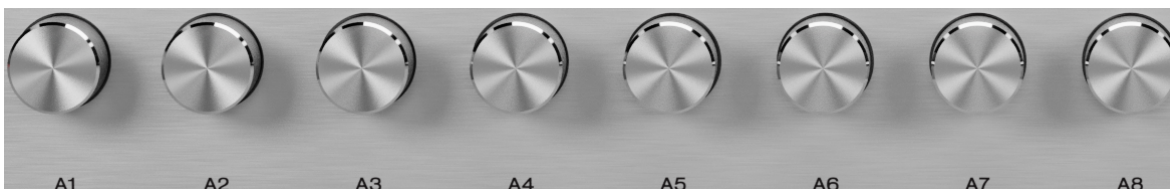
左から右へ説明



Mic/combo Inputs A1 - A2

2つの マイク/ line / Hi-Z コンボ XLR コネクター

重要！ ラインレベルを入力するときは必ず TRS コネクターで接続してください。



Gain Knobs A1 - A8

8 つのコンボインプットのゲイン調整ノブです。回して入力ゲインを調整します。



Display

ピークメーター、メニュー、ファームウェアアップデートの進捗状況などを表示します。



Function Buttons

3つのファンクションボタンは異なる機能を提供します:

Top Button

- ヘッドフォン出力 1 (HP1) をミュートまたは解除します。
- 長押ししてシステムメニューに入ります。



3.1 System Menu

システムメニューには、以下のサブメニューがあります。メインロータリーコントロールを回して、項目をスクロールして選択します。メインロータリーコントロールを押し込んで、入力または確認します。いずれかの機能ボタンを押して終了します。

Device Info

デバイスのシリアル番号、ハードウェアおよびファームウェアのリビジョンを表示します。カスタマーサポートによるトラブルシューティングに役立ちます。

Change Interface

メインロータリーコントロールを押して、USB 接続と Thunderbolt 接続を切り替えます。接続を切り替えるたびに手動で行う必要があることに注意してください。

Scr Saver Time

スクリーンセーバーが表示されるまでにかかる時間を選択します。快適な最短の設定をお勧めします。

Scr Save Style

スクリーンセーバーのタイプを選択します。インターフェースが定期的に長時間動作している場合は、「黒」をお勧めします。これにより、ディスプレイの焼き付きを防止することができます。

Talkback HP1

ヘッドフォン出力 1 (HP1) にトークバックを送信します。デフォルトではオンになっています。メインロータリーコントロールを押して無効にします。



Talkback HP2

ヘッドフォン出力 2 (HP2) にトークバックを送信します。デフォルトではオンになっています。メインロータリーコントロールを押して無効にします。

Talkback MON

トークバックをモニター出力 1 (MON) に送信します。デフォルトではオンになっています。メインロータリーコントロールを押して無効にします。

Talkback MON2

モニター出力 2 (MON2) にトークバックを送信します。デフォルトではオンになっています。メインロータリーコントロールを押して無効にします。

Note: モニター出力 2 と REAMP 出力 R1 - R2 は同じジャックにあります。コントロールメニューまたはソフトウェアのコントロールパネルから「Monitor 2」と「REAMP」モードを切り替えます。

Talkback Mic

トークバックマイクの入力を選択します。メインロータリーコントロールを押してメニューに入ります。メインロータリーを回して、内蔵トークバックマイク、またはマイク／コンボ入力 A1 ～ A8 に接続されているマイクを選択します。もう一度メインロータリーコントロールを押して確定します。

Factory Reset

工場出荷時にリセットを行います。プリセットや設定はすべて失われますのでご注意ください。

Middle Button

- 押すと、シンクソースやデバイスのサンプルレートなどの情報が表示されます。
- もう一度押すと、コンボ入力1～4のゲイン、シグナルタイプ、48V 電源の設定を表示します。
- もう一度押すと、コンボ入力5～8のゲイン、シグナルタイプ、48V 電源設定を表示します。
- もう一度押すと終了します。



Bottom Button

- 押すと、ヘッドフォン出力2（HP2）をミュートまたはミュート解除します。
- 長押しするとコントロールメニューに入ります。

3.2 Control Menu

コントロールメニューには、以下のサブメニューがあります。メインロータリーコントロールを回して、項目を選択したり、値を調整したりします。メインロータリーコントロールを押して、入力または確認します。いずれかのボタンを押して終了します。

Power OFF

メインロータリーコントロールを押して電源を切ります。

Clock Source

次のオプションからクロックソースを選択できます。

- Internal
- ADAT (2x, 4x)
- S/PDIF
- USB (USB モードは、Discrete 8 Synergy Core の内部クロックを使用します。)

Sample Rate

デバイスのサンプルレートを選択します。選択がオペレーティングシステムと DAW のサンプルレートと一致することを確認してください。

Peak Meter

ディスプレイ上のピークメーターのオーディオソースを選択します。最大 32 のオーディオチャンネルが表示されます。



Monitor Trim

モニター出力信号の調整（dBu 単位）を調整します。

Line Out Trim

ライン出力信号トリムを調整します。（dBu 単位）

Monitor 2 / REAMP

アナログ出力を「Monitor Output 2」と「REAMP Outputs」モードに切り替えます。どちらのモードでも、出力は技術的には外部オーディオ機器のセンドとして機能します。しかし、これは本来のセンド目的ではありませんので、結果は異なる場合があります。

Brightness

ディスプレイを暗くするか、明るくします。



Main Rotary Control

ゲインとバリューを正確に調整するための大型のステップアッテネーター。

デフォルトの動作はこのようになっています。

- 現在選択されている出力（MONITOR、LINE OUT、MON2/REAMP）の音量を調整します。ボトムファンクションボタンを押して出力を選択します。
- 選択した出力をミュートまたはミュート解除します。



Talkback microphone and TBK Button

トークバックを起動します。内蔵マイクに話しかけます。メインロータリーコントロールでゲインを調整します。
TBK をもう一度押して終了します。



Headphone outputs H1 - H2 with gain adjustment knobs

1/4 インチ TRS 端子に 2 つのステレオヘッドフォン出力（隣接するゲイン調整ノブ付き）。

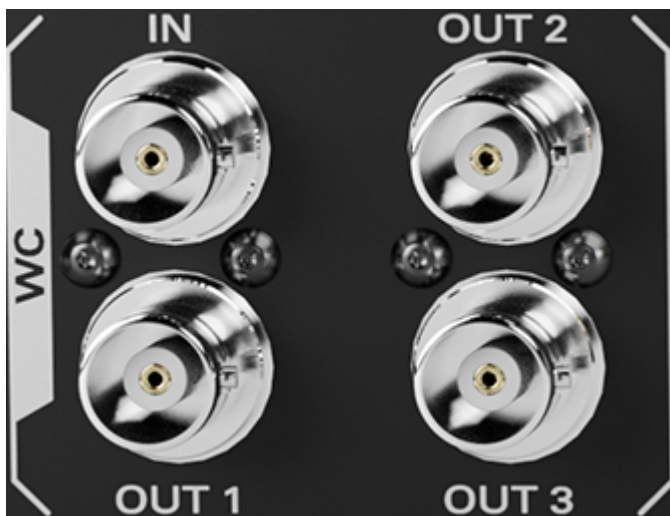


4. REAR PANEL EXPLAINED



18V/20W Power Input

Antelope Audio 電源との併用に限りです。



Word Clock I/O

1つのワードクロック入力と3つのワードクロック出力が BNC コネクタにあります。



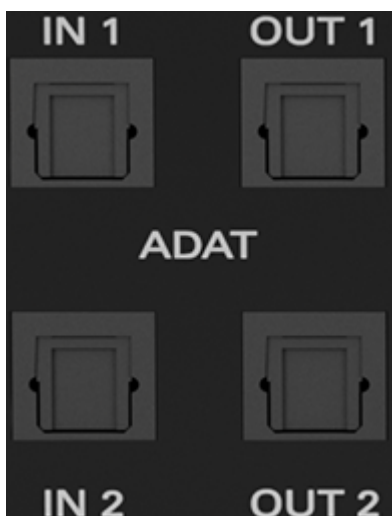
S/PDIF I/O

同軸 RCA ケーブルを介して2チャンネルの S/PDIF デジタルオーディオを送受信します。



Footswitch Input

フットスイッチを接続して、トークバックを有効にしたり、ミュートにしたりします。Antelope Audio ではフットスイッチは販売されていませんが、標準的なフットスイッチであればどのようなものでも使用できます。この機能には設定や調整はなく、文字通りプラグアンドストンプです。



ADAT I/O



2入力2出力で最大16の I/O オーディオ・チャンネルを Toslink 光ファイバ・ケーブルで伝送します。ADAT は S/MUX で動作します。標準的な ADAT オーディオ制限が適用されます。

- Up to 16 I/O channels of 24-bit, 48kHz audio.
- Up to 8 I/O channels of 24-bit, 96kHz audio (over S/MUX).
- Up to 4 I/O channels of 24-bit, 192kHz audio (over S/MUX).
- All ADAT audio is transmitted in 24-bit resolution.

Note: ADAT の接続・切断時に機器の電源を切る必要はありません。ただし、接続時に大きな信号スパイクが発生しますので、受信機器はミュートにしてください。



Thunderbolt™ port

コンピュータ接続用の Thunderbolt™ 2 ポート。Thunderbolt™ 3 接続には、サードパーティ製の TB3 to Legacy TB アダプタと対応するケーブルが必要です。



USB Port

コンピュータ接続用の USB 2.0 Type-B ポート。



D-SUB 25-pin Line Outputs



アナログオーディオ8チャンネルを搭載した DB-25ブレイクアウトケーブルコネクタ。TASCAM 標準のピンレイアウトに対応。DC-Coupled。



Monitor Outputs L/R

モニタースピーカー出力（1/4 インチジャック）。これらの出力は、システムの中で最も高いダイナミックレンジを誇っています。



REAMP Outputs R1 - R2

1/4インチのモノラル・ジャックにインストゥルメント・レベルの出力を搭載。ギターアンプなど DI トラックのリエンピングに適した機器との併用を想定して設計されています。



Important! これらの出力は、2 組目のモニター出力としても機能します。デバイスのコントロールメニューまたはソフトウェアのコントロールパネルからモニターと REAMP モードを切り替えます。



Mic/Line Inputs

6 つのマイク/ライン入力（コンボ XLR コネクタ）。A3 から A8 のラベルが付いています。これらの入力では Hi-Z は使用できません。

重要！ ラインレベルのソースは TS/TRS ケーブルで接続してください。

5. SOFTWARE CONTROL PANEL





ソフトウェア・コントロールパネルへようこそ 内部的には、伝統的な Antelope Audio Control Panel アプリケーションを簡素化して再構築したもので、"EasyPanel"と呼んでいます。これは Discrete 8 Synergy Core のようなインターフェースに適していますが、「ルーティング・マトリックス」（スタジオのパッチベイから派生したもの）のような寓意は、このユニットには適していないと感じました。

コントロールパネルは、フロントパネルのコントロールの代わりというだけでなく、インターフェイスの機能の各側面にストレートかつ包括的にアクセスすることができます。設定、入力、シグナルルーティング、オーディオミキシング、エフェクトスタッキング、モニタリング、メータリング、プリセットなどが含まれます。

コントロールパネルをフロントパネルのコントロールや DAW の機能の代わりにすることはある程度可能ですが、ソフトウェアに慣れ親しんでいただき、投資を最大限に活用していただくことをお勧めします。

「クイックスタート」のセクションをガイドとしてすぐに始めることもできますし、バーチャルノブやフェーダーに触れる前に章全体を読んでおくこともできます。

5.1. Quick Start

まず、コントロールパネルで実行される重要なタスクの簡単な例から始めましょう。

メモ: これらの例は、以下のタスクを達成する「正しい」または「唯一の」方法では決してありません。それらはいくつかの基本的なロジックを示しているだけで、初心者ユーザーが最も頻繁に遭遇する「最初のつまづき」に対する解決方法を提供します。

ヘッドフォンでオーディオをモニターする

マイク/コンボ入力 A1 からの着信オーディオをフロントパネルのヘッドフォン出力1（HP1）でモニターします。機器を A1 へ接続し、コントロールパネルを開きます。

1. 「PREAMPS」セクションで、左端のプリアンプに移動し、音量インジケータの右側にある中央のシンボルをクリックしてください

- マイクを接続した場合、マイクアイコンを選択します。コンデンサーの場合、ゲインノブの下ボタンから48V ファンタム電源を有効にします。



- ギターまたはベースを接続した場合のギターのアイコンを選択。
- ラインレベルのソース（シンセ、サンプラー、プレーヤーなど）を接続した場合のジャックアイコンを選択

2. [AFX] エリアの上にある入力セクターをクリックし、メニューから [PREAMPS] > [PREAMP 1] を選択します。

3. ヘッドフォンで楽器の音声が聞こえるはずですが、[PREAMPS] セクションの [GAIN] ノブで入力ゲインを調整し、ミックスフェーダーまたは [HEADPHONE 1] ノブで出力ボリュームを調整します。フロントパネルのコントロールを使用することもできます。

Synergy Core FX をオーディオに適用する

入力セクターの下で「AFX」領域をクリックして、Synergy Core FX ラックウィンドウを起動します。

[ADD NEW EFFECT] ボタンをクリックして、選択を行います。完了したらウィンドウを閉じます。FX ラックの詳細な概要は、マニュアルの後半にあります。

バーチャルアンプとキャビネットを使用してギターを演奏する

1. ギターを A1 に接続し、Discrete 4 Synergy Core の [Monitor LR] にスピーカーを接続します。

2. コントロールパネルを開き、[PREAMPS] の一番左の領域に移動します。エレキギターのシンボルが表示されるまで、音量インジケータの右側にある中央のシンボルをクリックします。

3. [AFX] エリアの上にある入力セクターをクリックし、メニューから [PREAMPS] > [PREAMP 1] を選択します。

4. 入力セクターの下で「AFX」エリアをクリックして、Synergy Core FX Rack を起動します。[ADD NEW EFFECT] をクリックして、メニューからギターアンプとキャビネットを選択します。どこから始めればよいかわからない場合は、[Modern (US)] アンプと [Modern 4 x 12] キャビネットの組み合わせが、素晴らしいモダンなロック/メタルリグになります。

キャビネットシミュレータの詳細な概要は、マニュアルの後半で入手できます。



マイクエミュレーション使用し、ヘッドフォンでモニターする

1. フロントパネルの HP 1 にヘッドフォンを接続します。
2. Antelope Audio Edge または Verge モデリングマイクをプリアンプ/コンボ入力に接続します。この例では、入力 A1 および A2 に接続されている Edge Duo を使用しています。
3. コントロールパネルを開き、PREAMPS セクションから左端のプリアンプに移動します。「AFX」エリアの上にある入力セクターをクリックし、メニューから [PREAMPS] > [PREAMP 1] を選択します。
4. [マイク] アイコンに切り替わるまで、音量インジケータの右側にある中央のシンボルをクリックします。次に、[歯車] アイコンをクリックします。これにより、マイクエミュレーションウィンドウが起動します。ダイヤルで Edge Duo を選択します。
5. ゲインノブでマイクゲインを調整します。プリアンプ A1 と A2 がリンクされ、同じ設定になっていることに注意してください。この時点で、ヘッドフォンでマイクの音声が聞こえるはずです。下部の HP1 ゲインノブまたはチャンネル 1 と 2 のミックスフェーダーを使用して、出力ボリュームを調整します。
6. マイクエミュレーションが適応された信号をモニター、またはそのまま DAW へ記録したい場合、3. で設定した PREAMPS 設定を EMU MIC に変更してください。

DAW へ録音する

Discrete 4 Synergy Core での録音は非常に簡単です。まず、インターフェイスが DAW のメイン入出力デバイスとして選択されていることを確認します。次に、コントロールパネルを開き、「DAW」をクリックします。次のことに注意してください。

- DAW の入力 1 - 16 は、「TO DAW」の [Record 1 - 16] というラベルの付いた 16 チャンネルに対応しています。入力セクターを使用してオーディオソースを選択し、「AFX」エリアから Synergy Core FX を追加します。次に、DAW で新しいトラックを作成し、一致する番号を持つ入力を割り当てます。「Record 1」=「Input 1」（各設定は DAW の説明書を参照）
- 同様に、DAW の出力 1 - 16 は、「FROM DAW」の [PLAY 1 - 16] というラベルのチャンネルに対応しています。これらのチャンネルは、入力セクターからのオーディオ入力として選択できま



す。DAW の外部で使用するオーディオトラックに出力 1 – 16 を割り当てます。コントロールパネルで、クリックして [COMPUTER PLAY 1 – 16] を選択します。この方法で、Synergy Core FX の信号を DAW へ録音したり、最大4つのモニタリングミックスを作成したりできます。非常に自由度が高く、可能性は非常に幅広いです。

5.2. マウス・キーボードショートカット

次の機能は、コントロールパネルのマウスとキーボードのショートカットからアクセスできます。

- デフォルト値に戻す（すべてのノブとフェーダー）

ノブまたはフェーダーをダブルクリックします。

- テキストラベルを変更し、ゲイン値を手動で入力します。

テキストラベル/ゲイン値をダブルクリックします。

- パラメーター値を少しずつ調整します（すべてのノブとフェーダー）

Ctrl（Windows） / Command（macOS）を押しながらドラッグします。

- ピークメーターをクリックしてクリアします。



5.3. Main View

コントロールパネルは、上から下に次のように構成されています。



5.3.1. Function Strip 1



On/Off Button

クリックするとハードウェアユニットの電源のオン/オフができます。



Device Menu

ドロップダウンメニューをクリックして、接続されている Antelope Audio デバイスを切り替えます。
Antelope Launcher からデバイスごとに個別のコントロールパネルインスタンスを起動もできます。



Help Button

クリックすると、次のヘルプウィンドウが開きます。

- Contact Tech Support (No Japanese)
- デバイスとソフトウェアの情報を表示
- アンテロープ登録ウィザードを起動 [ADMINISTRATION] ボタン



Minimize & Close Buttons

クリックして、コントロールパネルアプリケーションを最小化または閉じます。



5.3.2. Function Strip 2



Clock Source Menu

ドロップダウンメニューをクリックして、クロックソースを選択します。

- Internal
- ADAT (2x, 4x)
- S/PDIF
- USB (USB モードは、Discrete 4 Synergy Core の内部クロックを使用します。)



Sample Rate Menu

ドロップダウンメニューをクリックして、デバイスのサンプルレートを選択します。選択がオペレーティングシステムと DAW のサンプルレートと一致することを確認してください。



Lock Indicator

Discrete 4 Synergy Core が外部デバイス（ADAT など）にロックされているときに点灯します。



Session Menu

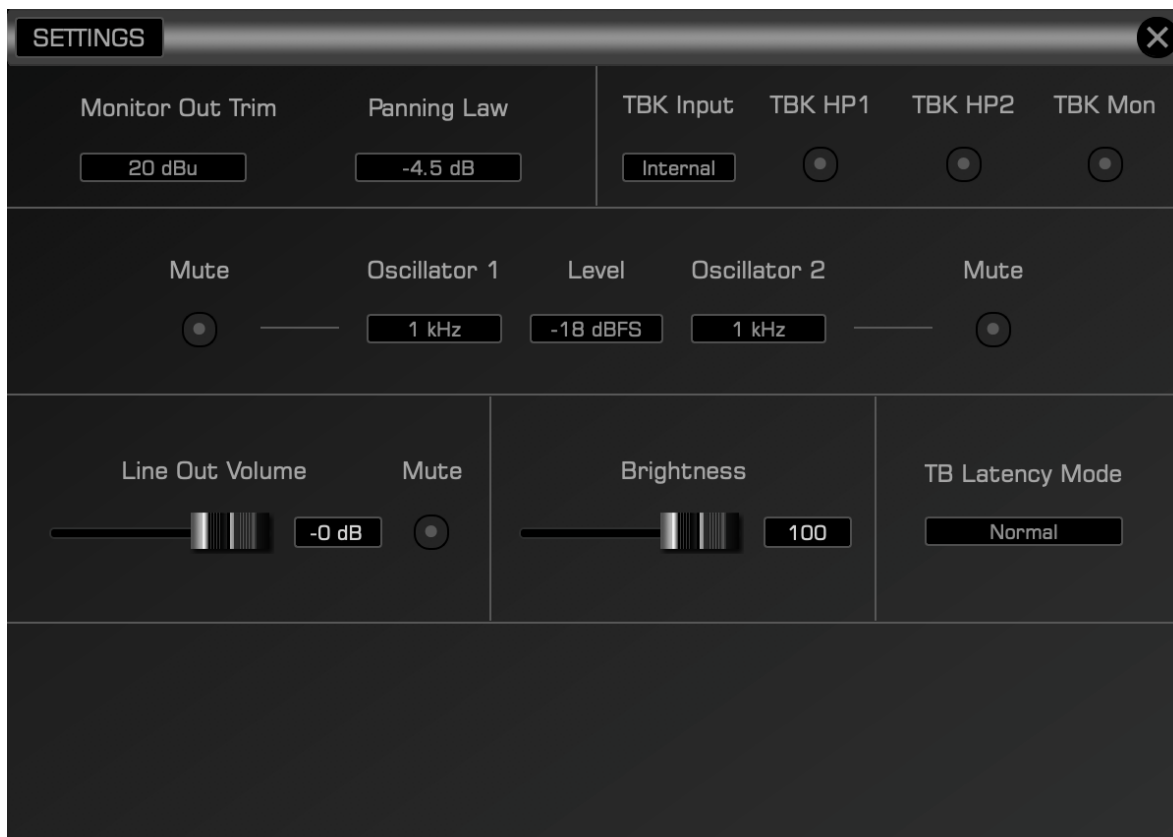
ドロップダウンメニューをクリックして、セッションをロードします。セッションファイル（* .as）を保存およびロードするには、隣接する「SAVE」および「LOAD」ボタンを使用します。

「セッション」は、コントロールパネル構成全体の完全な「スナップショット」です。セッションを保存するときに、保存するコンポーネントを正確に選択し、[名前を付けて保存 (Save As)] ボタンからセッションファイルを保存して共有することができます。セッションをロードするとき、セッションファイル（* .as）のコンピューターを参照し、ロードするコンポーネントを選択できます。



SETTINGS

5.3.2.1. Settings Button



Monitor Out Trim	Click to choose the signal trim amount (in dBu) for the Monitor Outputs from the drop-down menu.
Panning Law	Click to specify Panning Law compensation between 0dB (none) to -4.5dB from the drop-down menu.
TBK Input	Click to change Talkback input from the internal mic to any microphone connected to mic/line inputs A1 - A8.
TBK HP1	Click to send Talkback input to Headphone output 1 (HP1).



TBK HP2	Click to send Talkback input to Headphone output 2 (HP2)
TBK Mon	Click to send Talkback input to the monitor outputs.
Mute	Mutes Oscillator 1 output.
Oscillator 1	Choose a frequency for the Oscillator 1 test signal from the drop-down menu.
Level	Choose the output level (in dBFS) for the oscillator 1 & 2 test signals.
Oscillator 2	Choose a frequency for the Oscillator 2 test signal from the drop-down menu.
Mute	Mute Oscillator 2 output.
Line Out Volume	Use the fader to adjust line outputs volume (in dB). Click the adjacent 'Mute' button to mute and unmute the line outputs.
Brightness	Use the fader to adjust the hardware unit's display brightness.
TB Latency Mode	Choose the Thunderbolt Latency mode from the drop-down menu. Experiment with the different modes if you experience audio glitches, CPU overload, etc.
ASIO Settings	For Windows users - click to launch the Discrete 8 Synergy Core USB ASIO Control Panel. The 'Buffer Settings' tab lets you choose your preferred ASIO Buffer Size for an optimal balance between latency and performance.



5.3.3. PREAMPS Strip

左端に「PREAMPS」と表示されています。Discrete 8 Synergy Core の A1 - A8 のラベルが貼られた 8 つのマイク / コンボイン プットのコントロールが含まれています。各入力には以下のコントロールがあります。



Gain Knob

ノブをクリックしてドラッグするか、中央のテキストラベルをダブルクリックし、キーボードを使用して入力ゲインを調整します。ゲイン範囲は次のとおりです。

- Mic: -12dB - 64dB
- Line: -6dB - 20dB
- Hi-Z (inputs A1 and A2): 0dB - 40dB

48V Button (in mic mode)

コンデンサーマイクの 48V ファンタム電源を有効または無効にできます。

Peak Meter

入力ゲインを視覚化します。

Link Button ('stereo' symbol)

クリックすると、隣接する入力を 2 つのペアでリンクします。1 つのチャンネルに加えられた変更は、隣接するチャンネルにも同じ変更が適用されます。



Input Type Button ('mic' symbol)

マイク、ライン、Hi-Z（入力 A1～A2）のいずれかの入力をクリックして切り替えることができます。

Mic Emulations Button ('cog' symbol, when in mic mode)

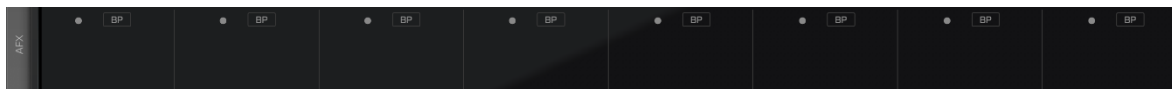
クリックして「Mic Emulations」ウィンドウを開きます。詳細については、Edge & Verge Mic Emulations の章を参照してください。



5.3.4. Input Selectors

入力セクターは各アナログおよびデジタル出力チャンネルの上にあります。入力セクターをクリックして、関連する出力チャンネルに割り当てられたオーディオ入力を選択します。次の選択肢があります。

PREAMP 1 - 8	These are the four mic/combo inputs.
EMU MIC 1 - 8	These are the four mic/combo inputs with Edge & Verge Mic Emulations applied. This way, you can record 'dry' and 'mic emulation' audio on different channels.
COMPUTER PLAY 1 - 32	These inputs represent DAW Outputs 1 - 32. <u>This is where you receive audio from your DAW.</u> Assign an audio track to Output 1 - 32 in your DAW and choose the COMPUTER PLAY input with the same number. This way, you can route DAW audio to the analog and digital outputs and apply Synergy Core FX to it.
ADAT IN 1 - 16	ADAT audio inputs 1 - 16.
S/PDIF IN 1 - 2	Two channels of incoming S/PDIF stereo digital audio.
MUTE M	Choose to mute this channel
OSCILLATOR 1 - 2	Test signal from oscillator 1 or 2.



5.3.5. AFX Strip

左端に「AFX」と表示されています。[MONITORS & HEADPHONES] と [DAW] タブで利用可能です。各出力チャンネルの上にある AFX エリアの内側をクリックすると、FX Rack が開き、Synergy Core FX が適用されます。BP ボタンをクリックすると、チャンネルに適用されたすべての FX をバイパスします。

FX Rack はこのようになっています。



次の機能が利用可能です。

- 「SAVE」および「LOAD」ボタンを使用して、FX チェーンを保存および呼び出します。
- [BP ALL] ボタンをクリックして、ラック内のすべての FX をバイパスします。再度クリックして、再度有効にします。
- [DEL ALL] ボタンをクリックして、FX ラックをクリアします。
- 入カラベルの下のドロップダウンメニューをクリックして、工場出荷時のプリセットをロードします。
- [ADD NEW EFFECT] ボタンをクリックして、Synergy Core FX を選択してロードします。コントロールは右側のセクションに表示されます。
- 左側のセクションでは、クリックしてドラッグして FX の順序を変更できます。各エフェクトの横にある [BP] ボタンを使用して、バイパスできます。
- Ctrl キー（Windows）または Command キー（Mac）を押しながらドラッグして、小さいステップでコントロールを調整します。
- 「How To」ボタンは、インターネットブラウザで、Antelope Audio YouTube チャンネルのビデオチュートリアルプレイリストを示します。



MONITORS & HEADPHONES

DIGITAL OUTS

ANALOG OUTS

DAW

5.3.6. Output Tabs

Discrete 8 Synergy Core のアナログ/デジタルオーディオ出力用の入力セクター、ミキサーコントロール、ピークメーターを含む 4 つのタブです。先に進む前に、各タブの説明をお読みください。



MONITORS & HEADPHONES

このタブには 4 つの 32 チャンネルのバーチャルミキサーが含まれています。

各チャンネルにオーディオインプットをアサインするにはインプットセクターを、8 つのオーディオチャンネルに Synergy Core FX を適用するには「AFX」エリアをご利用ください。

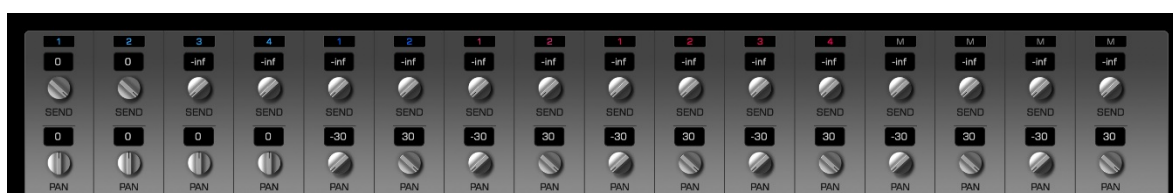
オーディオインプットは 4 つのミキサー間で共有されます。ミキサーごとに異なる入力を持つことはできませんが、Solo、Mute、Pan、Link、Volume コントロールはミキサーごとに個別に設定されているため、4 つの別々のミックスを作成することができます。例えば、特定のオーディオインプットを 'HEADPHONES 1' ミックスに入れたいが、'MONITOR 2' ミックスには入れたくない場合、'MONITOR 2' ミキサーのチャンネルをサイレンス（ミュート、フェーダーを下げるなど）するだけです。

マスターボリュームノブ、マスターピークメーター、AuraVerb、そしてミックスビューを 8 チャンネルから 32 チャンネルに拡張するスイッチは下部にあります。それでは、AuraVerb をさらに詳しく見ていきましょう。

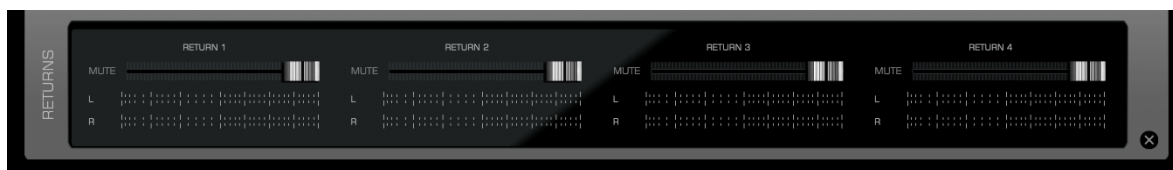


5.3.6.1 AuraVerb

AuraVerb は、特別な新しいアプローチと独自のアルゴリズムを使用して、豊かさと色を提供します。リバーブには、8つの異なるコントロールがあり、「Color」パラメーターを使用して、暗くなったテクスチャから明るい、ジューシーな存在までのすべてを作成します。さらに、受賞歴のあるオーディオエンジニアおよびプロデューサーの Brian Vibberts による 24 のプリセットがあります。



AuraVerb は、ライブパフォーマンスとモニタリング用に設計されたセンドエフェクトです。ミキサーチャンネルの「SEND」ノブを回して、リバーブが適用されているのを聞きます。

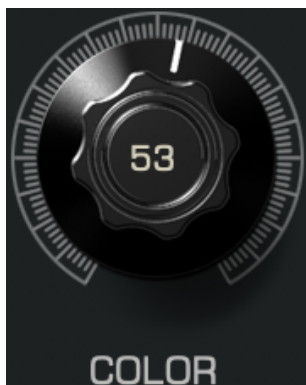


「Returns」エリアのフェーダーをドラッグして、モニターまたはヘッドフォン出力から AuraVerb を聞けます。



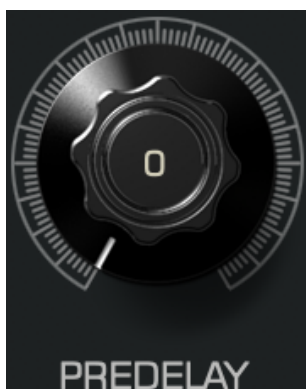
Parameters

AuraVerb では次のパラメーターを使用できます。



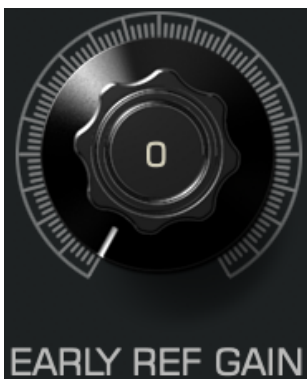
Color

カラーコントロールを使用すると、リバーブの全体的なトーンを調整できます。0 の場合、作成されたスペースは暗くなり、緑豊かなカーペットのようになります。100 では、リバーブが最も明るくなり、リードボーカルに「シズル」を加えることができます。



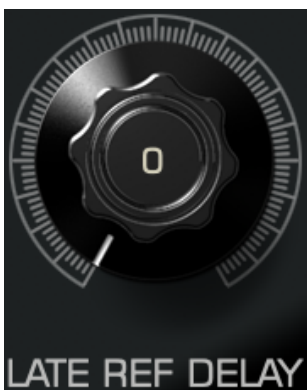
PreDelay

ほとんどのリバーブに共通するプリディレイパラメータを使用すると、ソースとリバーブの開始の間に少しのスペースを作成できます。これは、リバーブからの最初の音に先行する遅延時間の量を制御することにより発生します。このパラメータは、未処理の信号よりも後の時間に残響信号を配置するために使用されます。このための自然な設定は、環境のサイズに基づいており、範囲は 0 - 32 ミリ秒です。曲のテンポや曲の劇的なタイミングに関してこのパラメーターを微調整すると、ミックス内のリバーブの感触を設定するのに役立ちます。



Early Reflection Gain

すべての初期反射のリニアゲイン値です。これらの反射は、低いレベルに設定すると知覚的に直接音とグルーブ化され、増加するとトラックをうまく太くすることができます。



Late Reflection Delay

AuraVerb は仮想空間の側壁と天井からの反射エネルギーを計算します。Late Reflection Delay は、これらの反射バーストのディレイを制御し、エコーを作成するか、シミュレートされた音響空間の空間的印象をサポートします。



Richness

Richness は、リバーブのエンベロープとニュアンスの減衰の複雑さを制御します。0 では、減衰が少なくなり、減衰が明るくなります。この音は軽いか風通しが良いですが、豊かさを増すことにより、音に広がり感を加え、低周波数のリバーブ時間をスムーズに増やすことができます。



Reverb Time

Reverb Time は減衰の長さを制御し、Room Size は仮想空間の寸法を増加させます。知覚される減衰時間は、高周波数コンテンツを多く含むソースのリッチネスとカラーの影響も受けます。一般的に、スペースのサイズが大きくなると、リバーブ時間も長くなります。

リバーブ時間を 50% に設定すると、すべての部屋のサイズで自然な響きの尾が得られます。興味深い大きなスペースや微妙なアンビエンスリバーブは、[Room Size] パラメーターに対してリバーブタイムを異常に高くまたは低く設定することで作成できます。



Room Size

仮想空間のサイズを増加させます。



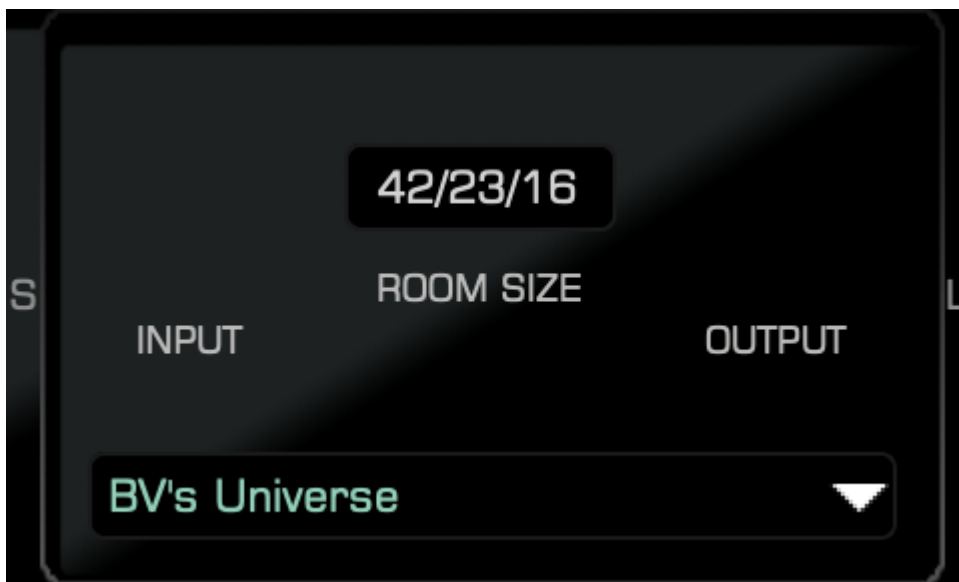
Reverb Level

これはリバーブの出力レベルコントロールです。AuraVerb の入力 は Mixer 1 のチャンネルの Send ノブに割り当てられているため、Send コントロールからチャンネルの音量レベルを調整し、Reverb Level を使用してマスターバスのリバーブの量を調整することをお勧めします。



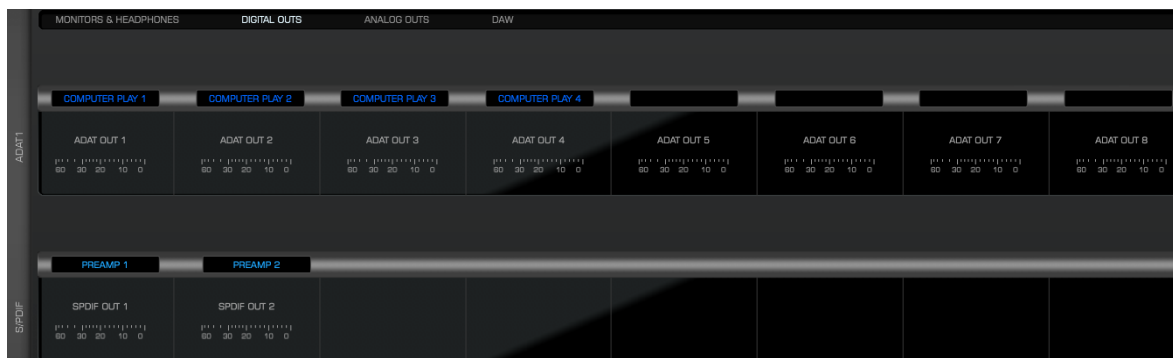
REVERB FX ON/OFF Switch

AuraVerb を有効または無効にします。



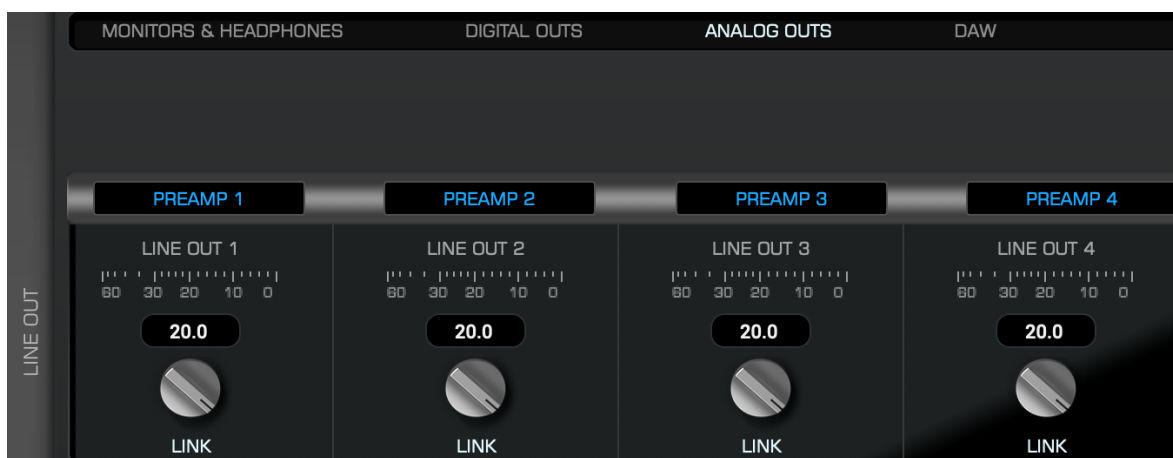
Preset Manager

プリセットマネージャーを使用すると、プリセットを保存およびロードできます。ドロップダウンメニューを使用して、プリセットを選択します。「S」ボタンを使用してプリセットを保存します。「L」ボタンを使用してプリセットをロードします。



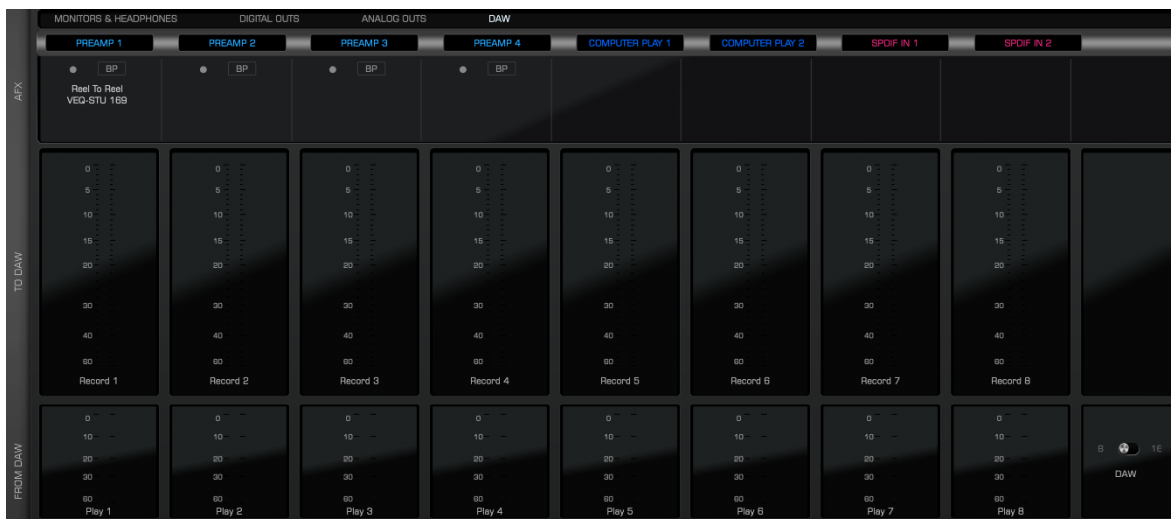
DIGITAL OUTS

このタブでは、利用可能なすべてのオーディオ入力を ADAT および S/PDIF デジタル出力にルーティングできます。各 ADAT および S/PDIF 出力チャンネルには、専用の入力セクターとピークメーターがあります。



ANALOG OUTS

このタブでは、利用可能なすべてのオーディオ入力をラインおよび REAMP 出力にルーティングできます。各ラインと REAMP 出力には、専用の入力セクター、ピークメーター、およびトリムノブがあります。



DAW

このタブには、DAW を出入りするオーディオが表示されます。製品を発展して使用するしたい場合、ここで何が行われているのかを理解する必要があります。

「MONITORS & HEADPHONES」タブにある4つの仮想ミキサーのチャンネル 1 – 16 は、DAW の入力 1 – 16 に配線されています。4つのミキサーの入力はすべて共通となっています。したがって、以下のように考えてください。新しいトラックを作成し、それを「Input 1」に割り当てると、ミキサーの「チャンネル 1 番」のオーディオが DAW に入力されます。

便宜上、「MONITORS & HEADPHONES」タブの入力セクターと AFX エリアは「DAW」タブにミラーリングされています。録音しているオーディオ入力を明確に確認できます。どの FX が適用されているか（存在する場合）タブ間を行き来することなく変更ができます。

ピークメーターは、すべての入力および出力 DAW オーディオチャンネルで使用できます。[COMPUTER PLAY] 入力をチャンネルに割り当てると、「FROM DAW」にピークメーターが表示されます。これは、[COMPUTER PLAY] 1 – 16 入力が DAW 出力 1 – 16 からオーディオを受信するためです。

したがって、DAW からアナログおよびデジタル出力、または Synergy Core FX にオーディオトラックを送信する場合 – このトラックを出力 1 – 16 に割り当て、コントロールパネルに戻り [COMPUTER PLAY] を割り当てます。好きな場所に同じ番号を入力してください。



6. GUITAR AMPS & CABS



11 のギターアンプと対応するキャビネットのスイートにより、エレキギターの音をリアルタイムで聞いて録音できます。ベース用のリグもあるので、プラグインしてスラッピングしてください！ ギターは弾かないが、クックアップのチューブやスピーカーキャビネットが空気を押し出すように、これらのバッドボーイに音声をルーティングして、何が起こるかを聞いてください！

ギターアンプシミュレーター入門

ギターアンプとキャビネットは、他のほとんどの Synergy Core エフェクトと同様に使用できます。

1. ギターを A1 に接続し、Discrete 4 Synergy Core をスピーカーに接続します。
2. コントロールパネルを開き、「PREAMPS」の左端の領域に移動します。エレキギターのアイコンが表示されるまで、音量インジケータの右側にある中央のシンボルをクリックします。
3. 「AFX」エリアの上にある入力セクターをクリックし、メニューから [PREAMPS] > [PREAMP 1] を選択します。
4. 入力セクターの下の「AFX」エリアをクリックして、Synergy Core FX Rack を起動します。[ADD NEW EFFECT] をクリックして、メニューからギターアンプとキャビネットを選択します。

どこから始めればよいかわからない場合は、[Modern (US)] アンプと [Modern 4 x 12] キャビネットの組み合わせが、素晴らしいモダンなロック/メタルリグになります。



ギターアンプは説明する必要性を感じませんが、キャビネットモジュールは調査する価値があります。

- [Cabine] ドロップダウンメニューからいつでもキャビネットモデルを変更します。
- [Mic A] および [Mic B] ドロップダウンメニューからキャビネットのマイクを変更します。マイクを選択により位相の問題が発生する場合は、隣の [Phase] ボタンをクリックします。
- 仮想マイクをクリックしてドラッグし、垂直および水平の位置を調整します。
- [Mic A] および [Mic B] ノブをクリックして回し、各マイクから必要な信号量をダイヤルインします。
- [Rear Mic] ノブをクリックして回し、キャビネットの背後にある追加のマイクからの信号をミックスインします。
- [45° Mic] ノブをクリックして回すと、スピーカーコーンから 45 度の角度に配置された追加のマイクからの信号がミックスインされます。
- [ReSPiRe] ボタンをクリックして、Overloud のシムモジョを有効にします。言い換えれば、ReSPiRe テクノロジーを使用すると、キャビネットのリアルな応答と、ミックスに収まるように最適化された処理済みバージョンとを切り替えて、他の楽器との周波数重複を回避できます。
- [HPF] ボタンをクリックして、プリセットのハイパスフィルターを有効にします。（低域が過剰になります）
- [LPF] ボタンをクリックして、プリセットローパスフィルターを使用します。（調子の粗い音または甲高い音）
- [BP] ボタンをクリックして、バイパスします。

メモ: Synergy Core のキャビを無効にして、お好みの IR ロダーで DAW のカスタムギターキャビネット IR を使用できます。



6.1. Software Re-amping

Synergy Core のアンプとキャビネットを使用して、DI ギタートラックをリアンプできます。

1. DAW を開き、DI をトラックに配置し、出力 1 - 16 のいずれかに割り当てます。

DAW 出力 = COMPUTER PLAY

2. コントロールパネルを開き、「DAW」タブをクリックします。チャンネル 1 - 4 の入力セクターをクリックし、DAW 出力と同じ番号の [COMPUTER] 入力を選択します。

3. AFX エリア内をクリックして、FX ラックからアンプ、キャビネット、FX を積み重ねます。

4. DAW で新しいトラックを作成し、ライブモニタリングを有効にします。正しい入力チャンネル（出力チャンネルと同じ番号）を割り当て、トランスポートコントロールで「再生」を押します。リアンプされたトラックが聞こえ、録音できるはずです。



7. EDGE & VERGE MIC EMULATIONS

Edge & Verge マイクエミュレーションは、Antelope Audio Edge & Verge モデリングマイクのみで使用することを目的としています。他のマイクで最適な（または使用可能な）結果を保証することはできません。

7.1 マイクモデリング入門

フロントパネルの HP1 にヘッドフォンを接続します。Antelope Audio Edge または Verge モデリングマイクをプリアンプ/コンボ入力に接続します。この例では、入力 A1 と A2 に接続されている Edge Duo を使用しています。

1. コントロールパネルを開き、PREAMPS 行から左端のプリアンプに移動します。「AFX」エリアの上にある入力セクターをクリックし、メニューから PREAMPS > PREAMP 1 を選択します。
2. [マイク] アイコンになるまで、音量インジケータの右側にある中央の記号をクリックします。次に、[歯車] アイコンをクリックし、マイクエミュレーションウィンドウを起動します。ダイヤルで Edge Duo を選択します。
3. ゲインノブでマイクゲインを調整します。プリアンプ A1 と A2 がリンクされ、それらの間で同じ設定になっていることに注意してください。この時点で、ヘッドフォンでマイクの音声が聞こえるはずですが、下部の HP 1 ゲインノブまたはチャンネル 1 と 2 のミックスフェーダーを使用して、出力ボリュームを調整します。

7.2. ゲイン調整のキャリブレーション

Edge Solo と Verge のゲイン調整は簡単ですが、Edge Duo と Edge Quadro は マルチメンブレンマイクロフォン です。各信号を別々で使いたい場合は、入力信号強度に違いがある場合があり、個々のゲイン調整で補正する必要があります。

注意として、Edge Duo および Edge Quadro のマイクエミュレーションは、入力チャンネルを自動的に「リンク」するため、マイクエミュレーションの使用中は、入力ごとの個別のゲイン調整はできません。



マイクエミュレーションを使う

[マイクエミュレーション] ウィンドウで、ダイヤルを回転させ、使用可能なエミュレーションにアクセスします。

以下は、各 Antelope Audio モデリングマイクでマイクエミュレーションを使用するためのガイドです。

7.3. Edge Solo



Edge Solo のマイクエミュレーションウィンドウ

- 右側のドロップダウンメニューからマイクエミュレーションを選択します。
- [Phase Invert] のダイヤルをクリックして回し、マイクの極性を反転できます。
- [48V] スイッチを クリック & ドラッグ し、ファンタム電源をオン/オフできます。



Edge Solo の信号のレコーディングとモニター方法

Edge Solo は、単一のメムブレンコンデンサーマイクです。これは、マイクが 1 つの物理マイクプリアンプ入力と 1 つの仮想 [MIC EMU] 出力を占有することを意味します。

Edge Solo のマイクエミュレーションは、単一の入力オーディオチャンネルで動作します。「ドライ」オーディオと「マイクエミュレーション」オーディオの両方を録音およびモニターするということは、2つのモノラルトラックを扱うことを意味します。

- Edge Solo の [PREAMP] を任意の出力にルーティングして、「ドライ」オーディオをモニターしつつ DAW へ信号を送り、録音できます。
- Edge Solo の [EMU MIC] (PREAMP 入力と同じ番号) を任意の出力にルーティングして、「マイクエミュレーション」オーディオをモニターしつつ、DAW へ信号を送り、録音できます。
- [PREAMP] および [EMU MIC] チャンネルを異なる出力にルーティングし、録音またはモニターして、「ドライ」と「マイクエミュレーション」の両方のオーディオを DAW 上で取得できます。

Edge Solo の製品について詳しい情報は製品ページをご確認ください。[こちら](#)



7.4. Edge Duo

「Edge」モデリングマイクの所有者への注意：「Edge」と「Edge Duo」は同じハードウェアですので、「Edge Duo」エミュレーションを旧「Edge」マイクに自由に使用してください。

Edge Duo のマイクエミュレーションウィンドウ



- 中央のドロップダウンメニューからマイクエミュレーションを選択します。
- [Phase Invert] ダイアルをクリックして回し、マイクの極性を反転できます。
- [48V] スイッチをクリック & ドラッグし、ファンタム電源をオン/オフできます。
- [Channel Swap] ダイアルをクリックして回し、Edge Duo の 2 入力を切り替ええます。
- [Pattern] ノブをクリックして回し、極性パターンを調整します。一部のマイクモデルには、固定または制限された極性パターン調整があります。

Edge Duo のレコーディングとモニタリング

Edge Duo はデュアルメンブレンコンデンサーマイクです。デュアルメンブレン付きのカプセルが1つあり、Y-XLR ケーブル（付属）、各メンブレンに1つの XLR コネクタで接続します。左（白）コネクタは前面のダイヤフラムで、右（赤）コネクタは後面のダイヤフラムです。



マイクは、2 つの物理的なマイクプリアンプ入力と 2 つの [EMU MIC] 仮想出力を占有します。

メモ: XLR コネクタの 1 つを外すことで、Edge Duo を単一コンデンサーマイクとして使用できます。この場合、マイクエミュレーションは表示されますが、正しく機能せず、極性パターンの調整ができません。

Edge Duo を単一指向性マイクとして使用する

Edge Duo の [PREAMP] 入力を任意の出力にルーティングして、「ドライ」オーディオをモニタし、DAW の入力 1 - 16 から録音するだけです。

Edge Duo をデュアルメンブレンコンデンサーマイクとして使用する。

この場合、2 つの同時モノ入力を録音およびモニターします。1 つは各ブレンのものです。メンブレンとパフォーマーの間の物理的な距離により、音色と音量がわずかに異なります。メンブレンごとに個別のゲイン調整で補正する必要がある場合があります。

Edge Duo が占有する [PREAMP] 入力を目的の出力にルーティングして、「ドライ」オーディオをモニタし、DAW の入力 1 - 16 から録音します。

Edge Duo をモデリングマイクとして使用する

「Edge Duo」マイクエミュレーションが有効になっていることを確認します。Edge Duo が占有する [PREAMP] 入力に対応する [MIC EMU] 入力を、DAW の入力 1 - 16 からモニタリングおよび録音するための目的の出力にルーティングします。

ドライシグナルとマイクエミュレーションシグナルを録音、モニターする

Edge Duo では、「ドライ」および「マイクエミュレーション」オーディオのモニタリングと録音は、4 つの同時モノ信号（2 つの「ドライ」トラックと 2 つの「マイクエミュレーション」トラック）を同時に処理することを意味し



ます。「ドライ」オーディオは [PREAMP] 入力から発生し、「マイクエミュレーション」オーディオは [MIC EMU] 出力から発生します。任意の場所にルーティングし、DAW の入力 1 - 16 から録音します。

Edge Duo の製品について詳しい情報は製品ページをご確認ください。[こちら](#)



7.5. Edge Quadro

Edge Quadro の接続

Edge Quadro は、4メンブレンコンデンサーマイクです。2つのヘッドがあり、それぞれにデュアルブレンが採用されています。トップヘッドは 360 度回転し、M/S、X/Y、Blumlein、さらには 3D サウンドなどのステレオ録音技術に応用できます。マイクには Y-XLR のペアケーブルが付属しています。左（白）コネクタは前面のメンブレン用で、右（赤）コネクタは後部のメンブレン用です。

各ケーブルとマイク本体には上部と下部のヘッド用に指定されたラベルがそれぞれに付けられています。T（上部）または B（下部）ラベルがマイクとケーブルに付いており、各ケーブルとマイクを接続します。

Edge Quadro を Discrete 4 Synergy Core に接続するためのオプションが多数あります。

シングルメンブレン（回転可能）コンデンサーマイクとして使用する。

対応するケーブルを使用して、上部（回転可能）または下部ヘッドから XLR を 1 つだけ接続します。可能な構成は次のとおりです。

1. Top Head – Front Membrane.
2. Top Head – Rear Membrane.
3. Bottom Head – Front Membrane.
4. Bottom Head – Rear Membrane.

デュアルメンブレン（回転可能）コンデンサーマイクとして使用する。

上部および下部ヘッドのいずれか（または両方）の 2 つの XLR を対応するケーブルで接続します。可能な構成は次のとおりです。



1. Top Head – Front and Rear Membranes.
2. Bottom Head – Front and Rear Membranes.
3. Top Head – Front Membrane. Bottom Head – Front Membrane.
4. Top Head – Front Membrane. Bottom Head – Rear Membrane.
5. Top Head – Rear Membrane. Bottom Head – Front Membrane.
6. Top Head – Rear Membrane. Bottom Head – Rear Membrane.

クアッドメンブレン回転式コンデンサマイクとしてしようする。

両方のヘッドのすべての XLR を対応するケーブルで接続します。これは Edge Quadro マイクエミュレーション唯一のオプションです。



Edge Quadro のマイクエミュレーションウィンドウ



Edge Quadro と Edge Duo のマイクエミュレーションは同一です。ただし、2つの異なるマイクエミュレーション（ヘッドごとに1つ）を同時に適用でき、2つの異なる極性パターンも交換できます。全体として、機能は同じですが、2つのマイクエミュレーションセクターと2つのポーラーパターンチェンジャーを備えています。

Edge Quadro のレコーディングとモニタリング

Edge Quadro の 360 度録音とデュアルエミュレーション機能を最大限に活用することは、マイクが4つの物理マイクプリアンプ入力と4つの [MIC EMU] 仮想出力を占有することを意味します。

Edge Quadro で「ドライ」および「マイクエミュレーション」オーディオを同時にモニター/録音するには、8つのモノラルトラックを同時に処理する必要があります。トップヘッドから2つの「ドライ」、ボトムヘッドから2つの「ドライ」、2つの「マイクエミュレーション1」と2つの「マイクエミュレーション2」。

非常に多くの信号を使用できるため、ルーティングと処理の可能性は広がります。マニュアルを書き留めて、スキルと創造性を探ってください。

Edge Duo の製品について詳しい情報は製品ページをご確認ください。 [こちら](#)



7.6. Verge

Verge は、Edge Solo と同じくらい使いやすい小型のダイアフラムコンデンサーマイクです。高い音圧レベルを処理する能力により、狭いスペースでの位置決めや、ドラムキットなどの非常に大きな音源の録音に適しています。



Verge Mic のマイクエミュレーションウィンドウ

- 右側のドロップダウンメニューからマイクエミュレーションを選択します。
- [Phase Invert] ダイアルをクリックして回し、マイクの極性を反転できます。
- [48V] スイッチをクリック & ドラッグし、ファンタム電源をオン/オフできます。

Verge のレコーディングとモニタリング

Verge は、単一指向の小型ダイアフラムコンデンサーマイクです。これは、マイクが 1 つの物理的なマイクプリアンプ入力と 1 つの [MIC EMU] 仮想出力を占有することを意味します。



Verge マイクエミュレーションは、単一の入力オーディオチャンネルで動作します。「ドライ」オーディオと「マイクエミュレーション」オーディオの両方を録音およびモニターすることは、2つのモノラルトラックを同時に処理することを意味します。

- Verge の [PREAMP] 入力を任意の出力にルーティングして、「ドライ」オーディオをモニターします。
- Verge の [EMU MIC] 出力（PREAMP 入力と同じ番号）を任意の出力にルーティングして、「マイクエミュレーション」オーディオをモニターします。
- [PREAMP] ブロックと [EMU MIC] ブロックを任意の出力にルーティングして、「ドライ」と「マイクエミュレーション」の両方のオーディオをモニターおよび記録します。
- DAW の入力 1 – 16 へ録音します。

Verge の製品について詳しい情報は製品ページをご確認ください。[こちら](#)



8. AFX2DAW

AFX2DAW は、Synergy Core FX を DAW のインサートとして使用するためのブリッジプラグインです。すべての Synergy Core FX 処理および I/O オーディオストリーミングアクティビティは、インターフェイスの DSP および FPGA プロセッサによって処理されます。AFX2DAW は、DAW の Synergy Core FX オートメーションの追加ボーナスにより、より迅速なワークフローを提供します。これは、他の方法では利用できません。

執筆時点では、AFX2DAW は Thunderbolt™を介した Mac コンピューターでのみサポートされています。Windows バージョンは開発中です。

AFX2DAW の詳細と購入については [ここをクリック](#) してください。

AFX2DAW のセットアップ

AFX2DAW を購入すると、Antelope Audio ユーザーアカウントの登録に使用した電子メールアドレスで「Claim Code」を受け取ります。

注意: 電子メールが受信ボックスに届かない場合は、「スパム」フォルダーと「迷惑メール」フォルダーを確認してください。

1. antelopeaudio.com のログインページから自分のアカウントへログインして Claim features に 移動し、購入した Claim Code を認証してください。
2. Antelope Launcher を開き、「Plug-ins」 ボタンをクリックします。「AFX2DAW」の最新バージョンをダウンロードしてインストールします。
3. Discrete 4 Synergy コアコントロールパネルを起動します。
4. [?] ボタンをクリックし、[ADMINISTRATION] をクリックします。先程 Claim Code を登録したアカウント情報でログインし、「Continue」をクリックします。



5. [Register device or assign features] を選択し、画面の指示に従って AFX2DAW を Discrete 4 Synergy Core に割り当てます。

6. DAW を起動し、AFX2DAW のインスタンスをモノラルまたはステレオトラックにロードします。プラグインは、Control Panel FX Rack とほぼ同じように動作します。

- [ADD NEW EFFECT] ドロップダウンメニューをクリックして、効果を選択して追加します。インスタンスは、右側の FX ラックに表示されます。左側のリストでは、クリックしてドラッグして並べ替えることができます。
- 「SAVE」ボタンと「LOAD」ボタンを使用して、FX チェーンを保存します。
- [BP ALL] および [DEL ALL] ボタンを使用して、現在ラックにあるすべての FX をバイパスまたはクリアします。
- これらのボタンの下のドロップダウンメニューを使用して、プリセットをロードします。
- 左側の各エフェクトの横には、個別の [BP]（バイパス）ボタンがあります。
- Command/Ctrl キーを押しながら FX パラメーターをクリック & ドラッグで少しずつ調整できます。

メモ: DAW セッションで開いているすべての AFX2DAW ウィンドウを閉じれば、CPU を使用してピークメーターの動きをアニメーションする必要がなくなり、完全に CPU フリーになります。



9. ADVANCED USER TIPS

Use the Discrete 8 Synergy Core as a Master clock

We recommend taking advantage of the Discrete 8 Synergy Core's highly stable and musical clocking, provided by proprietary 64-bit Antelope Audio algorithms (Acoustically Focused Clocking & Jitter Management) to generate timing reference for other digital audio devices in your setup.

This is done in a Master - Slave arrangement where the Master device "clocks" the Slave device with its timing reference signal. To set up the Discrete 8 Synergy Core as a Master clock, connect Word Clock Out 1 or 2 to the Slave device's Word Clock In using a standard BNC cable. The Discrete 8 Synergy Core does not require any specific setup, but the receiving device might require modifying its settings to act as a Slave.

Further reading:

- For a primer on digital clocking and jitter, read [this article](#). More in-depth information can be found [here](#).
- This interview with Antelope Audio founder and CEO, Igor Levin, is also very illuminating.



10. CUSTOMER SUPPORT INFORMATION

Antelope Audio Customer Support can be reached by the following means:

Online

Visit support.antelopeaudio.com

Phone

US time: 12AM (midnight) – 8PM (CST), Monday – Friday

US Phone Number: [\(916\) 238-1643](tel:+19162381643)

European time: 6AM – 2AM (GMT), Monday – Friday.

UK Phone Number: [+44 1925933423](tel:+441925933423)

Live Chat

US time: 12AM (midnight) – 2PM (CST), Monday – Friday

European time: 6AM – 8PM (GMT), Monday – Friday.

Note: If you're trying to reach us outside working hours, we advise you to file a ticket in our customer support system or leave a voice message.

Additional Resources

- The [Antelope Audio YouTube channel](#) is home to various tutorial videos and endorser content which you may find helpful and inspiring.



- The [Antelope Audio Users Facebook group](#) lets you interact with fellow users and some of our employees. Note, however, that it is not meant to be a support group. Please contact our customer support team for such inquiries.
- The [Knowledge Base](#) in our Customer Support section is an often-overlooked source of troubleshooting information, answers to commonly asked questions and Antelope know-how.

11. MY ANTELOPE AUDIO PRODUCT ISN'T WORKING.

WHAT SHOULD I DO?

If you can't find a solution on your own, please get in touch with us so we check if you are having a hardware-related issue. If this is the case, we'll guide you through the repair process. If the product should be returned, a RMA number will be issued so we can begin the procedure.

What's an RMA number?

Issuing a RMA (Return Merchandise Authorization) number is required for any factory service or repair procedure. Please, don't attempt to send us your device without receiving a RMA number first, as the device will be returned and not serviced.

How do I get an RMA number?

The Antelope Audio Customer Support team is in charge of issuing RMA numbers. Visit support.antelopeaudio.com and get in touch.



After your RMA has been issued, you will receive an email with instructions on how to proceed.

RMA shipping information

Alongside the product you are returning please, include a letter containing your full name, shipping address, RMA number issued by our technical support team and a note with a short information about the technical issue.

Please use the original box if possible, because a worn out one will surely not protect your product sufficiently on its way to the Antelope Audio HQ. Additional cushioning materials in multiple layers between the unit and the box walls to prevent from shock, vibration and various tears and scratches.

Please remove any labels or old shipment markings it may have and ensure you add your shipping address inside the box in case the original shipment label becomes illegible during transportation.

The shipping costs are covered by the owner of the product. Antelope Audio will not cover any local customs charges.

We recommend using a courier service of your choice (e.g. DHL, UPS, FedEx). The package should be insured for its real value, marked as fragile and a tracking number should be provided. We do not recommend using standard mail delivery services.

Please, don't forget to add the RMA number, issued by the Antelope Audio technical support, on all shipping paperwork.



Antelope Audio cannot be held responsible for undelivered packages – lost or damaged on the way to the Antelope Audio HQ. For damage claims, please contact your shipping service provider of choice.

Antelope Audio cannot cover any repair costs for product damages due to poor packaging.

12. LIMITED WARRANTY POLICY

This is a non-transferable voluntary Limited Product Warranty provided to end-customers who have purchased Antelope Audio-branded hardware product (hereinafter referred to as “Product”) from an authorized Antelope Audio re-seller.

For customers covered by consumer protection laws or regulations in their country of purchase or, if different, their country of residence, the benefits conferred by Antelope Audio's Limited Warranty are in addition to, and not instead of, rights and remedies convened by such consumer protection laws and regulations and it does not exclude, limit or suspend buyer's rights arising from consumer law. Consumers have the right to choose whether to claim service under the Antelope Audio Limited Warranty or under their consumer law rights.

All claims made under the Antelope Audio Limited Warranty will be governed by the terms set out in this warranty document.

Warranty Coverage

Antelope Audio warrants that the Product will be free from defects in material and workmanship for the period of 1 (one) year commencing on the date of purchase of Product by end-customer from authorized Antelope Audio's re-seller.



Except where explicitly prohibited by applicable local law, this warranty is limited to the original purchaser and is non-transferable. This warranty provides you with specific legal rights, and you may have additional rights that vary under local laws.

In general, this warranty means your Antelope Audio hardware product will operate in accordance with published technical specifications, as specified by its data-sheet, and in the operating environment for which it was intended for the length of the warranty period.

This version of the warranty applies to products purchased on or after January 1, 2018. For prior versions of the Antelope Audio limited warranty, please contact customer service.

Limited Factory Refurbished (B-stock) Warranty

Antelope Audio warrants products sold as “B-stock, Factory Refurbished or Open Box” to be free from defects in materials (unless otherwise stated in product description) and workmanship. Only products purchased from an authorized dealer or directly from Antelope Audio are covered by this Warranty.

The Limited Factory Refurbished (B-stock) Warranty is valid for the period of 6 (six) months, commencing on the date of purchase of Product, if local regulations do not require otherwise.

All warranty terms contained hereunder apply also to the B-stock Warranty, unless otherwise specified.

Remedies



Antelope Audio's entire liability and your exclusive remedy for any Antelope Audio Product that is not operating in accordance with its published technical specifications is at Antelope Audio's discretion:

1) to repair the Product at Antelope Audio's expense using new or equivalent-to new refurbished parts in good working condition; or

2) to replace the Product at Antelope Audio's expense with a product with equivalent functionality formed from new and/or equivalent-to new refurbished parts in good working condition, or

3) to refund the price paid. Should Antelope Audio decide to refund the price paid, it may deduct from the paid Product's price any damages caused to the Product; where, within fourteen (14) days of the expiration of the warranty period, (i) Antelope Audio has received written notice of any nonconformity; (ii) after Antelope Audio's written authorization, customer has returned the nonconforming product to the designated place; and (iii) Antelope Audio has determined that the Product is nonconforming and that such non conformity is not the result of any of the exclusions designated below.

These warranty obligations are conditioned upon the hardware being returned to the original place of purchase, or another place as directed by Antelope Audio, with the original sales receipt attached. You will be required to pay shipping and handling charges for returning the product. You may be required to pay any other applicable tariffs, duties, taxes, or other fees with regard to returning the products.

Any repaired or replacement Product will be warranted for the remainder of the original warranty period.

Obsolete or Discontinued Products



An obsolete or discontinued product will be repaired or replaced with the same product if available. If Antelope Audio is unable to replace your obsolete or discontinued product with the same product, Antelope Audio will replace the obsolete or discontinued product, in its sole discretion, with a product having similar function and capacity.

Exclusions

This warranty does not cover problems or damage resulting from, but not limited to, any of the following: (i)Wear and tear associated with normal use; (ii)Any modification, abuse, accident, disassembly, misapplication, misuse, negligence, acts of God, accident; (iii)Unauthorized repair or attempted repair by anyone other than Antelope Audio or someone authorized by Antelope Audio to do warranty work; any unauthorized repairs will void this warranty(iv)Any improper operation, maintenance or installation, including any use not in accordance with any supplied product instructions; (v)Connection to any improper voltage supply; (vi)Use of consumables or spare parts not supplied by Antelope Audio, except where such restriction is prohibited by applicable local law; (vii)Any other cause which does not relate to a Product defect in materials or workmanship.

The warranty does not apply to any Products which have been subject to misuse, neglect, accident or modification or which have been soldered or altered such that they are not capable of being tested under normal test conditions.

This warranty does not cover (i) any counterfeit products, i.e. Products that Antelope Audio, at its sole discretion, determines were not manufactured by Antelope Audio or any of its authorized manufacturing partners; (ii) Products purchased from a person or entity which is not an authorized dealer or re-seller of Antelope Audio; (iii)Product sold “as is” or “with all faults”, to the extend permitted by local law.



This warranty is not valid in case any manufacturer label(s), serial numbers, date stamp(s) or warranty sticker(s) has been altered or removed from the Product.

Limitation of Liability

ANTELOPE AUDIO SHALL NOT BE LIABLE FOR ANY SPECIAL, INCIDENTAL, INDIRECT, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES WHATSOEVER, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO LOSS OF PROFITS, REVENUE, OR DATA (WHETHER DIRECT OR INDIRECT) OR COMMERCIAL LOSS FOR BREACH OF ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTY ON YOUR PRODUCT EVEN IF Antelope Audio HAS BEEN ADVISED PREVIOUSLY OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGES. Some local laws do not allow the exclusion or limitation of special, indirect, incidental or consequential damages, so this limitation or exclusion may not apply in your jurisdiction.

ANTELOPE AUDIO WILL NOT ASSUME OR AUTHORIZE ANY OTHER PERSON TO ASSUME FOR IT ANY OTHER LIABILITY IN CONNECTION WITH ITS PRODUCTS.

Data Recovery

In the event of data loss using Antelope Audio storage devices, Antelope Audio is not responsible for backing up or recovering any data that you may have lost.

No Other Warranties

No Antelope Audio employee, dealer, re-seller, or other agent is authorized to make any modification, extension, or addition to this warranty.

How to Make a Warranty Claim

Valid warranty claims should be processed through your point of purchase. Please also verify the return policy directly with the retailer where you purchased your product. Any warranty claims that cannot be reprocessed through your original point of purchase should



be addressed directly to Antelope Audio. Our customer service contact information can be found on the web or in the documentation included with your Product.

Returning Your Product

In the event that you need to return your Antelope Audio products for repair or replacement, Antelope Audio will provide you with a Return Merchandise Authorization Number (RMA#) as well as return instructions. Do not return your product without prior approval from Antelope Audio. Any product returned without a valid unique RMA# will be refused and returned to the sender at the sender's expense. To avoid problems at the time of receipt, clearly write your RMA# on the outside of the package and include a copy of your RMA confirmation-mail within the package.

In certain situations, for in-warranty units, we may (entirely at our opinion) offer you a temporary replacement unit, provided that we have such on stock in your state. To request a temporary replacement unit, a valid credit card must be provided to secure the new replacement unit for shipping prior to Antelope Audio receiving the defective one.

Request a Return Material Authorization Number (RMA#)

Please follow these steps to obtain an RMA number:

(i) For end user customers, submit a claim online at: support.antelopeaudio.com. For business to business (B2B) / Direct customers of Antelope Audio please email us at techsupport@antelopeaudio.com

(ii) A valid proof of purchase is required for RMA processing (i.e. receipt, invoice, etc). Antelope Audio will provide you with the RMA number within 2 working days as of the claim submission date.



RMA Return Addresses

We have multiple RMA receiving locations worldwide. Your RMA confirmation will specify the specific return address you must use when sending your RMA package. Any packages received at an unauthorized location may be refused and returned to the sender at the sender's expense.

Products Lost or Damaged During Transit

The original packaging material should be used to pack the product for return; if the original packaging is not available, you should use such materials that provide the same or greater protection to the product. All packages that arrive with any external damage or appear inadequately packed will be refused and returned to the sender at the sender's expense. We are not responsible for damage incurred during shipping to our RMA receiving locations or for lost or stolen products.

Company information

Antelope Audio is the trade name, under which the company Elektrosfera Ltd., registered under the legislation of the Republic of Bulgaria with UIN: 131052590, is doing business and is worldwide known. Elsewhere in this document where the trade name **Antelope Audio** is used shall refer to Elektrosfera Ltd., with address of management: Tsarigradsko Shose Blvd., 7th km, Building of BIC IZOT, floor 6, Mladost region, Sofia, Bulgaria.

If any term hereunder is held to be illegal or unenforceable, it shall be severed from this warranty and the legality or enforce ability of the remaining terms shall not be affected.





13. SAFETY NOTES

To reduce the risk of electrical shocks, fire, and related hazards:

- Do not remove screws, cover, or cabinet. There are no user serviceable parts inside.
Refer servicing to qualified service personnel.
- Do not expose this device to rain, moisture or spillover of liquid of any kind.
- Should any form of liquid or a foreign object enter the device, do not use it.
Switch off the device and then unplug it from the power source. Do not operate the device again until the foreign object is removed, or the liquid has completely dried and its residues fully cleaned up.
- Do not handle the power cables with wet hands!
- Make sure the device is switched off when plugging/unplugging it to/from the power source.
- Avoid placing things on the cabinet or using the device in a narrow and poorly ventilated place which could affect its operation or the operation of other closely located components.
- If anything goes wrong, turn off the device first and then unplug the power. Do not attempt to repair the device yourself. Consult authorized service personnel or your dealer instead.
- Do not install near any heat sources such as radiators, stoves, or other apparatus (including amplifiers) that produce heat.
- Do not use harsh chemicals to clean your unit. Clean only with specialized cleaners for electronics equipment.
- Connect all your devices before powering your unit.
- This unit is connected via its power cord to the mains safety earth.
- Never operate the unit without this earth connection.
- DC power supply cable should be routed so that it is not likely to be walked on or squeezed by items placed upon or against it.



- To completely turn off the device, unplug the power cable first from the outlet and then from the rear panel of the unit.
- Both occasional and continued exposure to high sound pressure levels can cause permanent ear damage via headphones and monitors.
- Your unit should always be un-racked when traveling or in a flight case.
- The device is designed to operate in a temperate environment, with a correct Operating Temperature of 0-50° C, 32-122° F.

14. TECHNICAL SPECIFICATIONS

Analog Inputs	6 x Mic / Line Inputs 2 x Mic / Line / Hi-Z Inputs
Analog Outputs	2 x Monitor Out on TRS 1/4 Jacks, +20 dBu max (switchable to REAMP outputs) 8 x Line Outs on TRS, +20 dBu max, DC-Coupled 2 x Stereo Headphone Outputs
Mic Preamp	EIN: -128 dBu (A-weighted) Dynamic Range: -121 dB (A-weighted) THD: -106 dB Max input: +18 dBu Max Gain: 65 dB
D/A Monitor Converter	Dynamic Range: 130 dB THD + N: -115 dB
A/D Converter	Dynamic Range: 121 dB THD + N: -112 dB
D/A Converters (Line Out)	Dynamic Range: 118dB



	THD + N: - 100dB
Digital Inputs	2 x ADAT (up to 16CH) 1 x S/PDIF
Digital Outputs	2 x ADAT (up to 16CH) 1 x S/PDI
USB 2.0 I/O	USB 2.0 Type B connector
Thunderbolt™	Thunderbolt™ 2 connector
Word Clock Inputs	1 x Input @ 75 Ohms 3Vpp on BNC 32 – 192kHz
Word Clock Outputs	3 x Outputs @ 75 Ohms 3Vpp on BNC 32 – 192kHz
Clocking System	4th Generation Acoustically Focused Clocking & Jitter Management 64-bit DDS
Sample Rates (kHz)	32, 44.1, 48, 88.2, 96, 176.4, 192